

### 1 自己評価及び外部評価結果

**【事業所概要(事業所記入)】**

事業所番号	1072400342		
法人名	有限会社ドリームサトウ		
事業所名	グループホームもみじの里		
所在地	群馬県富岡市妙義町上高田660-1		
自己評価作成日	平成26年9月1日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

**【評価機関概要(評価機関記入)】**

評価機関名	特定非営利活動法人群馬社会福祉評価機構		
所在地	群馬県前橋市新前橋町13-12		
訪問調査日	平成26年9月22日		

**【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】**

我がホームは日本三大奇勝の一つに数えられる妙義山のすぐ近くに位置し、妙義山パノラマパークへはホームから車で15分程で行くことが出来、春には桜と新緑、秋には紅葉とコスモスなどを見学、また丹生湖や大塩湖も車で20分以内の場所にあり、年2~3回のバスハイクは利用者様のとても良い気分転換になっております。またホームの庭からも春には梅と桜、秋には紅葉といった季節の移り変わりを毎日目の当たりにして自然を楽しむことが出来ます。ホームの敷地内の畑で採れた新鮮な野菜は沢山収穫され食卓に並べられ美味しく食されています。歌や踊り、演奏、紙芝居などボランティアによる慰問も頻繁に行われて、ご家族や近隣の方々にもお声がけし、楽しみの回数を増やしております。また、災害発生時には近隣の方々の応援連絡網が作成されており万一の時の整備が整っております

**【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】**

理念を玄関・食堂・事務室に掲示し、朝の申し送りの際に唱和して、利用者と職員が共に明るく・温かみのある日々が送れるよう取り組んでいる。利用者が楽しみとしている食事の提供は、春巻きなどの副食に工夫を凝らし、味にも気配りをし、見た目も美味しく食べられるよう調理している。また、ホームの畑で収穫した野菜や近隣の人達が届けてくれる新鮮な野菜を食卓にのせ、職員は利用者と言葉を交わしながら同じ物を食べている。かかりつけ医や協力医の受診では、日々の状態を把握している看護師が付き添い、受診結果を家族に伝えている。家族が送迎する場合も看護師が立ち合い、医師の指示のもとに利用者の健康管理に取り組んでいる。

**V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します**

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を朝の申し送り時に唱和して利用者と職員が共に笑顔で穏やかに安定した落ち着いた生活がある生活が送れるよう努めている。	「利用者と職員が共に笑顔で過ごし地域の方が自然と足を運ぶような温かみのある施設を目指す」理念を、玄関・食堂・事務室に掲示し、朝の申し送りの際唱和して、利用者と職員が共に笑顔で明るく・温かみのある日々が送れるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の人たちにチラシや口頭で催し物(歌や踊りの慰問、施設の祭り)の参加を呼びかけている。	ボランティアが訪問する際には、近隣宅ポストにチラシを入れ、近隣の人達と一緒に手品や紙芝居を楽しんでいる。近くの人達から野菜を頂くこともある。その他、中学生の体験学習受け入れ、小学校の運動会見物、七夕飾りを作り富岡市の七夕祭りに参加など、地域との交流促進に取り組んでいる。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	推進会議や電話相談等で認知症について心配なことがあるときは相談にのりよく話を伺い支援している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の日程を前もって文書で連絡し年間の行事や慰問等を連絡して各委員の意見や希望などを伺い日常的な支援につなげている。また、家族には利用者のホームでの生活状況を報告して家族の意見や要望を聞き支援している。	運営推進会議は、隣接する区長2人、民生委員、地区の4人、家族代表で構成され、2ヶ月に1回開催している。会議では事業報告を行い、意見交換をしている。会議の前に防災訓練を行い火災発生時における対処の方法等を話し合い、そこでの意見を運営に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市が行う会議に参加し意見や希望を述べて助言や指導を受けている。	運営推進会議の開催通知や議事録、更新書類を持参し、生活保護受給者の入居について指導を受けている。頻繁に市及び地域包括支援センターに出向き、空き室状況を伝え、利用者の確保対策について意見交換を行っている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	勉強会を行い、職員全員が身体拘束の意義を分かち合い拘束しないケアを実践するように努めている。	身体拘束に関する研修を受講し、朝の申し送り時に報告して言葉遣いを含めた身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関に身体拘束をしない宣言文を掲示し、共通認識を図り、職員は身体拘束に伴う弊害を理解し取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修会に出席して高齢者虐待防止関連法について学び職員全員で虐待を起こさない施設に取り組んでいる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員それぞれ学ぶ機会を持って関係者と話し合い必要な人に制度が活用出来るよう支援している		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時に十分な説明を行い本人・家族に理解して頂き納得のうえ契約をしている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時や面会時または日頃から利用者や家族から意見や不満苦情等がある場合は施設長・職員が話し合い施設運営に反映している。	面会時や毎月の利用料を持参した際に家族の希望や意見を聞き、できるだけ外に出られる機会を作ってほしいという要望に、外に出られるよう体力維持に努めている。家族の意見を聞き、意見にはすぐに対応するようにしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎日の申し送り時や何かあったときは随時会議を開き話し合いを持っている。	体位変換が出来ない利用者の褥瘡予防のためのエアーマットの購入や車椅子利用者が入浴できるシャワーチェア・シャワーキャリーの購入希望など、施設長は、職員の提案を積極的に取り入れ働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の希望や考え方を聞く中で向上心を持って働けるような環境や条件を整えていくように努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	会議ではテーマをもとに勉強会を行っている、外部研修を受ける機会を確保するよう努力している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック単位での研修・親睦会に参加して情報交換等を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者は新しい環境に不安なため声かけや説明を多くし、常に笑顔で接するように心がけ安心して暮らせるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が困っていること、不安など要望等によく耳を傾け信頼関係が築けるよう来所時や電話での対応に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者、家族の声を良く聞き「今何が必要か」利用者に出したサービスが提供出来るよう努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の楽しみや趣味等を伺い日々の生活を通じて共に支え合う関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者について健康状態や心配なことなどあれば常に家族に相談し共に協力し合っ一緒に支え合っていく関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族が頻りに面会に来ており親戚や知人の面会も多く昔話などしている。家族には季節の衣類の入れ替え等依頼して面会の機会を増やすなど支援している。また家族には本人の思い出の品や写真など持ってきて頂き回想法の支援等に努めている。	利用者は馴染みの妙義山やコスモス畑などヘッドドライブに出かけている。また、家族と外食や花見に出かけ家族との絆を深めている。職員は継続的な交流が出来るよう関係者に働きかけ、知人、友人、親せきが面会に訪れている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	集団レクリエーションによる歌・体操・雑談塗り絵・工作などを通して孤立させないよう関わり合いを持つよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	対処時に悩みや心配事があれば何時でも気軽に声を掛けて下さいと話しかけ後の相談や支援に努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時、ケアプラン作成時に本人の希望・意向の聴取をしている。本人が訴えられない時は、家族に聞いたり表情などからくみ取る。	日々の関わりのなかやモニタリングの際に、希望や意向の把握に努めている。意思表示の難しい人は、表情や行動、家族からの生活歴等の情報を参考にしながら、本人本位の支援に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時に本人、家族から生活歴や暮らし方、生活環境やこれまでのサービス利用等を聞いて把握に努める。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の一日の様子を観察し記録を行い現状を総合的に把握する。特に有する力を見落とさないよう注意している。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアプラン作成時に本人、家族ケアスタッフと話し合い利用者本位の介護計画作成に努めている。	家族や医師・職員の意見を基に利用者が安心して暮らせるようカンファレンスを行い、介護計画を作成している。毎月のモニタリングを基に3ヶ月毎の定期見直しの他、体調の変化等に伴い随時の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子やケアの実践結果気づきや工夫を個別に記録している。スタッフ間で情報を共有し実践や介護計画に活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の状況、その時々要望に応じた柔軟な支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員・ボランティア・警察・消防・市と協力市ながら支援している。本人が心身の力を発揮して安全に過ごさせるよう支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の希望を聞き信頼出来る医師を主治医とする。月に一度の受診や緊急時の受診を支援している。	かかりつけ医や協力医の受診は日々の状態を把握している看護師が付き添い、受診結果は家族に伝えている。家族が対応する場合も看護師が立ち合い、医師の指示のもとに利用者の健康管理に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は利用者の日頃の状態を看護職員に明かしたり、相談して適切な受診や看護が受けられるようにしている。職員間の話し合いや申し送りを重視しより良い介護を目指す。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入院した際、病歴・薬日頃の状態等を伝え適切な治療が出来るよう努めている。病院関係者とは情報交換を行い良い信頼関係を築いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人、家族と体調不良時、終末期のあり方について早めに話し合っ事業所としても出来ることを伝えて理解して貰っている。往診医も確保している。	重度化した場合は食べられなくなった段階で家族と協議し、その後の対応を段階に応じ話し合っている。「もみじの里看取りに関する指針」に基づき、家族の希望により看取りに向けた支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者の急変時、事故発生時の対応は、マニュアル化してそなえている。職員間で応急手当の訓練を時々行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回消防署と地域の消防団の指導のもと、夜間や昼間を想定した火災訓練・通報訓練・避難訓練等をおこなっている。災害時には近隣の民家の人による緊急応援連絡網が整備されており訓練にも参加している。	年2回のうち1回は消防署の指導を受け、消防団員も参加、夜間を想定し、近隣の人も参加し行っている。地域の人達を対象とした緊急連絡網が整備され、食堂と事務室の電話の傍に掲示している。食糧は1週間分と卓上コンロが備えられている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	排泄介助やトイレ誘導には利用者の誇りやプライバシーを損なわないよう言葉かけを徹底しているまた一人一人の人格を尊重し、言葉遣いに気を遣っている。	トイレ誘導や入浴にはプライバシーに気配りをし、馴れ馴れしい言葉や乱暴な言葉かけに注意している。人生の大先輩として、その人の生きてきた生活歴を大切に、常に尊敬の気持ちを持ち接するよう話し合い、共通認識を持って支援している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の意向に添うよう良く話を聞き自己決定出来るよう働きかけ納得した上で暮らせるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事は一人一人の体調に配慮しながら本人のペースを大切に支援し入浴など拒否するときは希望する時間を聞いて配慮している。散歩や買い物など本人のやりたいことなど希望に添った支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ヘアカットについてはボランティアが年2回、その他は職員が希望に応じてカットを行い顔剃りや爪切りなどは常に清潔で居られるよう支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ホームの畑や地域で採れた新鮮な食材を使用し利用者の好みを取り入れた季節感のある食事を提供している。また職員と利用者が一緒に食事の準備や後かたづけをしている。	春巻きなどの副食に工夫を凝らし、味にも気配りをし、見た目も美味しく食べられるよう調理している。ホームの畑で収穫した野菜や近隣の人達が届けてくれる新鮮な野菜を食卓にのせ、職員は利用者と会話しながら同じものを食べている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事摂取量をこまめにチェック表に記入し不足しているときは補う工夫をしている。一人一人の健康状態を観察し栄養のバランスのとれた献立になるよう工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを実施し本人が上手に出来ないときは仕上げを行っている。嫌がるときは、時間を置いて行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人一人排泄のリズムを把握して習慣を活かしトイレでの排泄が出来るよう支援。また高齢や体調に伴いトイレでの座位が困難な利用者に置いてはベット上においてパット交換を行っている。	排泄チェック表で一人ひとりの排泄パターンを把握し、トイレ誘導をしている。トイレでの排泄で日々の生活が快適に送れるよう、テレビ体操や手足の運動・膝の屈伸運動等を行い体力の低下予防に努め、自立に向けた支援をしている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘の予防には一人一人の排便のサイクルを知り、便秘の時は水分摂取に工夫をしたり食物繊維の多い食べ物を提供するよう工夫している。1日3回食前体操は欠かさずに行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週2回入浴日を設定して支援している体調不良の利用者にはタイミングを見て支援している。季節の行事によるゆず湯や菖蒲湯また入浴剤などを変えて楽しんで貰っている。	シャワーチェアやシャワーキャリーの使用と2人介助で、安心してゆったりと湯船にひたれるよう支援している。入浴を拒否する人には、声かけの職員や時間を変えるなどして誘っている。その他、入浴剤で香りを楽しみ、ゆず湯や菖蒲湯で季節を感じられるよう工夫している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人一人の生活のリズムを把握し、その時々体調や状況に応じ休息を取って貰っている。室内の温度をエアコンで調節したり冬場は湯たんぽなどを使用し気持ちよく眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	一人一人が服薬している薬を表にまとめて職員が分かりやすい場所に貼って確認をしている。各利用者のファイルにその人の薬の説明書を入れてある。また薬に変化があるときは申し送りノートに記入し職員全員に分かるように口頭でも伝えている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事作りの野菜下準備やおやつ作りの手伝い、また洗濯物たたみなど行い、生活に張り合いを持っている。歌を歌ったり、昔の話をして気分転換を図っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるよう支援している	家族と共に外出したり季節毎にホームで計画して花見・祭り・紅葉狩り等をおこなっている。本人の希望により時々近所に散歩に出かけている。	建物から出ることを重視し、散歩、庭先でのお茶飲み、家族との外食、季節毎のドライブの他、定期受診を利用したドライブなど、できる限り外に出かける支援に心がけている。	



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理を理解している利用者がいないため紛失による不安や混乱を生じないように所持していない。必要なときには使えるように支援している		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人の希望により職員が取り次いで支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	広く明るい玄関にはソファが置かれ訪問者と談話ができる場所になっている。ホームの天井は吹き抜けで天窓もあり広々としており、壁には行事の写真や工作物などを飾りくつろぎの場となっている。	広い玄関ホールにはソファが備えられ、食後の一時を寛げるようになっており、玄関の大きなガラス窓越しに桜の花を見物したり、通りの人と手を振り挨拶をしたりしている。天窓から差し込む直射日光をよすが遮り、ホールに飾られたアンパンマンのちぎり絵が話題を提供するなど、家庭的な暮らしの場としての工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で会話を楽しめるようテーブル席の配置を工夫したり外の景色を眺めたり、好きな場所で過ごせるようソファを置いて工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人のお気に入りの家具が備え付けられている。本人や家族と相談しながら使い慣れた物や好みの物を飾り一人一人が心地よく過ごせるよう配慮している。	衣装ダンスや整理ダンス・使い慣れた寝具が持ち込まれ、手作りのカレンダーや細い竹で編んだすだれ状の小さな掛け軸に写真が飾られている。居室はゴーヤの緑のカーテンが陽を遮り、網戸の窓からは爽やかな風が吹き込み、居心地良く過ごせるよう配慮している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内には手すりや足元灯が取り付けられておりテーブルや椅子など角が丸くなっている物を置いてある。トイレの案内表示をしており空間も広く安全に歩行や移動ができるよう配慮している。		